

# 夢燃やした青春の日に思いはせ 大橋球場よ、ありがとう



青春の日に思いをはせ、後輩から送られたという、還暦祝いの赤いユニホームで選手宣誓する野田さん  
—長崎市松山町、長崎市営大橋球場—

## 野球部OB200人が「さよなら大会」

### 最後のグラウンドを満喫 長崎市内の8高校

県営球場建設のため、近く解体工事が始まる長崎市松山町の市営大橋球場で二十七日、同市内八高校の野球部OBが「さよなら大橋球場」と名付けた親善野球大会を開き、かつて青春の夢を燃やした思い出のグラウンドと名残を惜しんだ。

参加したのは長崎東、長ばい浮かんてくる。今、か崎西、長崎北、長崎商、長つての高校球児たちは感謝浦のOB選手約二百人。グラウンドでひとしきり、久しぶりの再会を喜び合った後、はつらつと入場行進を繰り広げた。

めに集まった。大橋球場よ、ありがとうと感謝の言葉。選手を代表し、長崎東高OBの野田勉さん(50)が、後輩から贈られたという還暦祝いの赤いユニホーム姿で「後輩諸君が新球場で腕を磨き、大いに羽ばたいてほしいと願う」と宣誓した。ゲームは計4試合があり、選手たちは久しぶりの硬球と、グラウンドの感触を染しむかのように、和気あいあいとプレーしていた。

大会会長の梅井征剛・長崎地区高校野球OB会長が「大橋球場は甲子園を目指す高校球児の夢をはぐくみ、数多くの名選手を送りだしてきた。最後のグラウンドを心ゆくまで満喫してほしい。これを機会に各校OB間の親ほくを深めていきたい」とあいさつ。長崎南山の清水克己(元監督は「目を閉じると、遠い青春の日に、笑い、泣き、あるいは走り、投げ、そして打った懐かしい思い出がいっ